

注：もしこれらの出版物を翻訳されたならば、そのコピーを私たちに送ってください。このページに追加します。

科学、技術と革新の政策及び実行に対する世界的な関心を考慮して、私たちは選ばれた出版物の簡単な要約を複数の言語で用意致しました。もし要約に関心を持たれたならば、その出版物の全体を翻訳することもできます。

**STI 政策分析** - 私たちは、公共資源の投資による有益な社会経済的効果を改善する目的で、政策と実行の両方の視点から科学的発見、工学技術及び市場革新の連動を検討します。

- 大部分の政府機関は、民間企業に資金援助をする代わりに、大学の研究・開発（R & D）プロジェクトに研究費の援助を行っています。この論文は何故この間接的なアプローチが数えきれない数の学術論文を生み出し、有形な解決策の結果に至らないのかを説明しています。研究・開発（R & D）と応用の間の永続的な溝の架け橋 (Lane, 2015)

Lane, J (2015). Bridging the persistent gap between R&D and application: A historical review of government efforts in the field of Assistive Technology. *Assistive Technology Outcomes and Benefits*, 9, 1, pp. 1 – 19.

- この本の或る章は、技術開発と科学研究を明確に区別できない国際的な政策機関が、より効率的で効果的な STI の政策と実行に向けた進展を何故妨げるかを説明しています – *科学及び技術の測定の作成と再作成：国際的な次元（2014）*。

B. Godin and J. Lane (2014), [Making and Remaking the Measurement of Science and Technology: the International Dimension](#). In Maximilien Mayer, Mariana Carpes and Ruth Knoblich (eds.), *The Global Politics of Science and Technology (II): Perspectives, Cases and Methods*, 163-177. Springer-Verlag Berlin Heidelberg.

- 間違っただ二分法上の学術討論は、すべてが社会に益しなければならない筈である技術革新に、複数の要因が影響を与えるという事実を紛らわします。 – *押しと引き：革新の需要牽引モデルの歴史（2013）*。

Godin, B, Lane, JP. [Pushes and Pulls: Hi\(S\)tory of the Demand Pull Model of Innovation](#), *Science, Technology, & Human Values*, August 5, 2013 (print publication date). <http://sth.sagepub.com/content/38/5/621>.

- 入力と出力の関係に関して凝り固まった仮定を受け入れるよりも、その因果関係を探る方がより重要です。 *方法論は神話に勝る（2012）*。

Lane,JP, Godin, B. [Methodology Trumps Mythology](#), *Bridges, The Transatlantic STI Policy Quarterly from the Office of Science & Technology, Embassy of Austria, Washington, DC*, 36, December 2012/OpEds & Commentaries.

- 殆どの国々の STI 政策は事業、産業及び商業市場の重要な役割を軽視しているので、それらの要素を疎かにしない国、中国に対して、これらの国々の世界的競争力は脆弱な状況に追い込まれています。 *アメリカの科学、技術と革新の政策は、事業に対して開かれてますか？（2012）*。

Lane, JP, Godin, B, Is America's Science, Technology, and Innovation Policy Open for Business? Science Progress, June 12, 2012, <http://scienceprogress.org/2012/06/is-america%E2%80%99s-science-technology-and-innovation-policy-open-for-business/>

- アメリカ合衆国によって放棄された政策は、過去 50 年に亘り多くの国によって成功裡に採用されました。この過去の政策を再導入することから、アメリカ合衆国は恩恵を受けると主張します。既視感政策：米国の技術革新の政策を逆輸入 (2012)。

Arnold, GJ, Lane, JP, Déjà Vu Policy: Importing U.S. Innovation Policies from Abroad, *Journal of Science Policy & Governance*, 2012, 2(1):1-21.

- 技術革新における科学的研究の支配的なパラダイムが、同様に重要な工学的開発と工業生産の手法に対する真剣な考慮をどのように排斥したかについて説明します。研究に関しての 1 世紀にも亘る議論：開発と生産になにが起きたのか？ (2012)

Godin, B, Lane, JP, A century of talks on research: what happened to development and production?, *International Journal of Transitions and Innovation Systems*, 2012, 2(1): 5-13.

- 研究と開発はどちらが優越かという議論は、技術革新の基礎となる要素に対する基本的な理解から着目をそらす間違った二分法論であると主張しています。研究か開発か (2011) ?

Godin, B, Lane, JP, Forschung oder Entwicklung?, *Gegenworte*, 2011, 26 (Fall 2011), 44-47. [English Translation](#)

知識的な成果は異なる状態で具現化されていくので、新たな知識が三種の鮮明に異なる方法論によって生成される事は広く認識されていません。

- この論文は、3 種の関連した方法論を通して生成された知識の 3 種類の状態に於ける関係を説明し、また知識が状態と利害関係の間で移動する 3 種類の過程も説明しています。概念的な発見、試作の発明と商業的革新の 3 種類の状態に於ける知識の管理 (2013)。

Lane, J. & Lane, R. "Managing Knowledge in the Three States of Conceptual Discovery, Prototype Invention & Commercial Innovation", KMIS 2013, Vilamoura, Algarve, Portugal, September 19-22, 2013

- 科学的研究、工学開発および産業生産の 3 種類の方法論は、新たな知識を生成するようにそれぞれ意図的に作られ、それら知識の成果の具体化は物質の三種の異なる状態に似ています：概念的な発見(気体)、試作の発明(液体)及び商業的革新(固体)。知識に関する三種の状態：発見、発明と革新 (2010)。

Lane, JP and Flagg, JL, Translating three states of knowledge--discovery, invention, and innovation, *Implementation Science* 2010, 5:9.

- この 3 時間のマイクロソフト・パワーポイントのセミナーは、アリストテレスから現在に至る知識の状態の歴史を辿り、近代的な構成および定義がどのように又どうして融合し混乱したのかを説明します。技術革新の基礎となる知識の 3 種類の方法と 3 種類の状態 (2014)。

Lane, J. "Three Methods & Three States of Knowledge underlying Technological Innovation." Seminar at the CTI Renato Archer, Campinas, Brazil.

技術革新の過程 – 新製品の開発の観点から科学的研究、工学開発と産業生産の間の重要な関係を説明します。

- 「必要性から知識へ」(NtK)のモデルは、学術及び産業界から引き出された証拠と共に、9種類の活動段階と決定閾門を用いて、科学的研究、工学開発と産業生産の方法を連携することにより、技術に基づいた製品開発について説明します。「必要性から知識へ」(NtK)モデル: 社会・経済的効果のある技術革新を生み出す為の証拠に基づいた枠組み(2013)。

Flagg, JL, Lane, JP, Lockett MM. Need to Knowledge (NtK) Model: an evidence-based framework for generating technological innovations with socio-economic impacts, *Implementation Science* 2013, **8**:21.

- 論理構造モデルの構築に抛り、希望する目標を明記し、効果、成果、完成品、過程および入力を逆方向に進めることによってその目標に達成する計画を図ります。技術革新の詳細な例で示すように、完成した計画はその目標を達成するために実施されます。技術革新のモデル化:、有益な社会経済的効果を生成するために科学、工学と産業界の方法をどのように組み合わせることができますか(2012)。

Stone, VI, Lane, JP, Modeling technology innovation: How science, engineering, and industry methods can combine to generate beneficial socioeconomic impacts, *Implementation Science*, 2012, **7**:44

- この二部からなるウェブキャストは、「必要性から知識へ」モデルを詳細に説明し、既存の文献から導かれた傍証について述べています。講義には、新製品の開発過程に不可欠な、事例、貴重な引用、有効なヒント、及び分析ツールが含まれています。あなたの過程を支援する段階と傍証(2010); 革新の為の研究者のリソース・ツール付き(2012)。

The KT4TT Knowledge Base: Steps and Supporting Evidence to Improve Your Process! (September 29, 2010), presented by Jennifer Flagg

The KT4TT Knowledge Base: The researcher's resource for innovation— Now including tools! (August 22, 2012), presented by Michelle Lockett

- テクニカル、マーケティング、ビジネス、使用者の四種に関して集められたデータの分析は難しいのですが必要で、特に新しいプロダクトを実用化するプロジェクトでは多くの場合、繰りかえされます。この論文は、このデータ解析をする為のツールの多くについて述べてあり、「必要性から知識へ」(NtK)のモデルに於いてどこで有用となるかを説明しています。リサーチ、開発と生産のツール (2015)

Flagg, JL, Lockett, MM, Condrón, J & Lane, JP (2015). Tools for Analysis in Assistive Technology Research, Development and Production. *Assistive Technology Outcomes and Benefits*, 9, 1, pp. 20 – 38.

障害とリハビリの分野に於ける技術革新は、大学段階でのプログラムを超えて拡張する必要があります。

- 技術に基いた製品開発に対する一般的なモデルは、「補助器具技術」と呼ばれる特定の市場の状況下に置かれている – 「必要性から知識へ」モデル: 知識移動と技術移転の為の運用枠組み(2012)。

Lane, JP, The "Need to Knowledge" Model: An operational framework for knowledge translation and technology transfer, *Technology and Disability*, 2012, **24**,187–192.

- 障害者の生活を向上させるには 使用者、医療関係者、民間企業へ強化された資金援助が必要であり、更に政府償還機関が使う為のより正確で的確な基準と指針を確立に基づかなければならないと専門家パネルは説明しました。支援技術に対する資金援助の基準 (2015)

Clayback, D, Hostak, R, Leahy, JA, Minkel, J, Piper, M, Smith, RO, Vaarwerk, T. (2015). Standards for assistive technology funding: What are the right criteria? *Assistive Technology Outcomes and Benefits*, 9, 1, pp. 39 – 54.

- このマイクロソフト・パワーポイントの講演は、革新の「ブラックボックス」を明らかにし、学術的な研究成果を有益な社会的効果に向けて変換する上での、業界の重要な役割を示します。市場革新はどこから来るのか? コウノトリからではない! (2014)。

Lane, J. "Where do Market Innovations come from? Not the Stork!" ATIA 2014, Orlando, FL - January 29-February 1, 2014

- 5つの関連する論文は、「補助器具技術」の観点で、新製品の開発、商業化と成果測定の異なる局面を記述しています – 技術移転に於ける科学の状態: 学術研究とビジネス開発の合流 (2010)。

Focused Issue: State of the Science for Technology Transfer, *Assistive Technology Outcomes and Benefits*, Summer 2010, 6(1).

Bodine, C, Bauer, S, Parette, Jr., HP, State Of The Science On Technology Transfer

- 効果的な実行の概要として、技術移転の過程に関与する重要なイベント、活動、及び関係する利害関係者に関する記述と例 – 技術移転と技術移転仲介 (2010)。

Bauer, SM, Flagg, JL. Technology Transfer And Technology Transfer Intermediaries, *Assistive Technology Outcomes and Benefits*, Summer 2010, 6(1). Summer 2010

- 1 ダースあまりの名門大学の研究・開発センターの過去にさかのぼった長期調査によると、不十分な計画、管理、重要な外部のパートナーとの協同の為に、大部分のプロジェクトが意図された結果を成し遂げることができないことを明らかにしています。研究と開発のうちで開発の受け渡し: 開発プロジェクトの成果の移転を増加させる為の勧告 (2008)。

Lane, JP Delivering the "D" in R&D: Recommendations for Increasing Transfer Outcomes from Development Projects, *Assistive Technology Outcomes and Benefits*, Fall 2008 Special Issue.

新しい知識を効果的に伝達する為の重要な要因は、的にした聴衆との関連性である ; 研究の硬直性や学者ステータスではない。

- 色々な利害関係者による知識使用の向上性に於ける有効性の観点から、受動的な拡散、標的を絞った普及、応用を考えた言い換えなどを3種のコントロール化された研究で比較しました。重要な結果として、フォーマットやメディアではなく、受け取り側に対する関連性が使用・関心のレベルを決める事が判りました。AT利害関係者に対する知識の有効なコミュニケーション (2015)

Stone, VI, Lane, JP, Tomita, MR, Flagg, JL, Leahy, JA, Lockett, MM, Oddo, C, Usiak, DJ, (2015). Effectively communicating knowledge to Assistive Technology Stakeholders: Three randomized controlled case studies. *Assistive Technology Outcomes and Benefits*, 9, 1, pp. 99 – 161.

- さまざまな利害関係者グループによる新しい知識を利用した証拠の記録は、非認知、認知、関心及び使用の4種類の知識の段階における変化を評価できる有効な測定の作成と検証を必要としました。リハビリに於ける利害関係者による知識の使用度測定の開発 (2014)。

Stone, V.I., Nobrega, A.R., Lane, J.P., Tomita, M.R., Usiak, D.J., Lockett, M.M., Development of a measure of knowledge use by stakeholders in rehabilitation technology, *Sage Open Medicine*, 2014, 2, 1-19.

- 研究開発プロジェクトの成果を商業的革新に変換することに貢献する外部の利害関係者との、研究開発結果の話し合いに関するマイクロソフト・パワーポイントによるワークショップ – 知識移動の実務者に対する技術移転 (2014)。

Flagg, J. "Technology Transfer for Knowledge Translation Practitioners" Knowledge Translation Professional Certificate Course Invited Faculty: Sick Kids Learning Institute, Toronto Ontario, February 26, 2014.

- この研究では、関連した分野の専門家達の相互交換に対する全国組織の感受性と、研究調査の結果を多様な従来と異なる聴衆にコミュニケーションする意欲・容量に関する既存の結論を確認し拡張しました。全国組織の役割の評定 (2015)

Nobrega, AR, Lane, J, Flagg, JL, Stone, VI, Lockett, MM, Oddo, C, Leahy, JA, Usiak, DJ (2015). Assessing the roles of national organizations in research-based knowledge creation, engagement and translation: Comparative results across three Assistive Technology application areas. *Assistive Technology Outcomes and Benefits*, 9, 1, pp. 55 – 98.

- 繰り返し行われたサーベイ調査に拠れば、国レベルでの専門家達の組織は、新しい発見を従来と異なる参加者と共有し合い、移動及び伝播できる効率的で効果的な場と経路を提供しています。 – 知識移動への携り：知識価値対応付け (マッピング) に於ける比較事例研究(2011)。

Lane, JP, Rogers, JD, Engaging national organizations for knowledge translation: comparative case studies in knowledge value mapping, *Implementation Science* 2011, 6:106.

- 製品を設計する過程での段階で、業界標準のフォーカスグループと座談会方式調査をすることは、出来上がる製品が、実際の使用者の必要性や関心に応えるものになることを確実にします。 – 目標となる使用者の関与: 成功する新製品開発の不可欠な部分 (2013)。

Leahy, J. Targeted Consumer Involvement: An Integral Part of Successful New Product Development, Electronic version of this article published in *Research-Technology Management (RTM)*, Vol. 56, No 4 (2013), pp. 52-58. Available online [www.iriweb.org/rtm](http://www.iriweb.org/rtm)